

高山朋子教授退任記念号の発刊に寄せて

高山朋子教授は、2010年3月に本学をめめでたく定年退職なされました。先生は、1977年4月に本学の専任講師としてご着任になられて以来、33年の長きにわたって本学において、教育、研究、学内運営に大いに携わってこられました。そのご功績に対して、経営学部は2010年4月に名誉教授の称号を贈らせていただきました。さらに、ここに先生のご退任を記念して、本記念号（東京経大会誌（経営学）第270号）を先生に捧げて感謝の意を表したいと思えます。

先生は、1940年に樺太にお生まれになり、1962年に北海道大学経済学部をご卒業されました。その後、日興証券株式会社、望月武義税務会計事務所、北海道大学経済学部助手を経て、1968年4月に北海道大学大学院経済学研究科修士課程に進まれ、1970年3月に同課程を修了されました。引き続き、同大学大学院経済学研究科博士課程に進まれ、1972年3月に同大学院経済学研究科博士課程を博士課程単位取得により退学され、1972年4月より、同大学経済学部助手として任官されました。その後、1975年4月には、旭川大学経営学部専任講師（簿記論担当）として就任され、1977年4月に本学経営学部専任講師（財務諸表論担当）としてご着任されました。その後、先生は、1980年4月に助教授、さらに、1985年4月に経営学部教授に昇進されました。また、先生は、大阪市立大学より商学博士の学位を得られています。

先生の主たるご研究テーマは、減価償却の意義の基礎的な考察から出発し、減価償却の本質に関わる諸論の考察、貸借対照表における退職給付引当金と負債の関係、自己資本や擬制資本の意味といった会計学の基本的な問題に関するものであり、それらの探究に取り組まれておられます。また、会計の歴史にも興味をもたれ、複式簿記を初めてその数学書に収録したルカ・パチョリの研究やナポレオンの軍隊の会計帳簿と監察制度などのご研究を通して、歴史的に簿記会計を研究され、特に、フランスの会計制度に関心を持たれ、フランス証券市場の生成・発展過程や、19世紀後半から第一次大戦までのフランスにおける企業金融、両大戦間のフランス企業の資本蓄積とその信用制度などを考察されるとともに、近年では、プラン・コンタブルの国際的な比較研究など、国際的な会計基準に関心をお持ちになられています。このように、先生のご研究は簿記・会計の基本問題に対して多岐にわたっており、ご研究を著した著書や論文等も多数に及んでいます。

教育面でも、ご着任以降、学部においては財務諸表論、簿記原理ならびに演習（ゼミ）、研究論文指導などを、大学院では修士・博士論文指導をなされ、高山ゼミを巣立って、現在社会の各界で活躍しているゼミOBは多数になっております。

高山朋子教授退任記念号の発刊に寄せて

さらに、このようなご研究・教育活動に加え、学内運営に関しても、本学経営学研究科博士課程開設に際しては準備委員会のメンバーとして、それ以降も、大学院研究科主任や大学院研究科運営委員として大学院の改革・運営にご尽力なされました。また、ご着任当初より、本学の学生に対する会計・簿記関連の資格取得支援に関わり、本学特修コースの税理士・会計士試験研修講座主任や運営委員として長らく携われ、2008年4月に創設された経営学部の会計プロフェッショナルプログラムコースでは中心的な役割を果たされました。財務諸表論や簿記原理等の担当教授として、本学経営学部に限らず、本学の会計・簿記教育、人材育成に多大なご貢献をなされました。

このような学内でのご貢献に加え、学外でも、日本会計理論学会、日本会計史学会、証券経済学会、信用理論研究学会等の学会でご活躍なされ、理事・監事も歴任されました。また、国土交通省土地鑑定委員会および独立行政法人評価委員会の委員も務められ、ご専門分野での知識を生かして、社会的貢献をなされてきました。

このように、先生のご活躍は多岐にわたり、長年の学究によって培われた見識を遺憾なく発揮され、本学経営学部の発展に大いに寄与されたことを、改めて感謝いたします。

最後になりますが、今後とも後進へのご指導を賜りたくお願いすると共に、先生の一層のご健勝とご活躍を祈念して先生のご紹介とさせていただきます。

2010年12月

経営学部長 若尾 良男